

平成28年度第4回「知事と語ろう市町村ミーティング in 酒田」

<開催日時> 平成28年10月6日(木)

<開催場所> 酒田市民会館「希望ホール」

<参加者> 約170名

【開催テーマ】人財と風土が支える産業・交流都市「酒田」を目指して

【質疑事項】

- 1 山形新幹線庄内延伸について
- 2 外航クルーズ対応について
- 3 ジオパークの支援について
- 4 Food Expo「ジャパンパビリオン」への県の対応について
- 5 若者の地域定住、男女共同参画社会の県の施策と現状について
- 6 少人数学級「さんさんプラン」の更なる推進について
- 7 高速交通網の格差是正及び山菜王国の山形県について
- 8 空き家について

【テーマに関する質疑】

1 山形新幹線庄内延伸について

<意見者>

昨年、山形新幹線庄内延伸の実現の署名運動を実施し、約5万9千票の署名とともに知事に直接要望しました。知事からは、フル規格新幹線が必要という立場に立ちつつも一緒に考えていきたいと思いますという言葉いただきました。

その後、活動は庄内、最上全域へと大きく広がっています。先月14日は庄内、最上の全ての市町村が協力会員となり、山形新幹線庄内延伸を目指す陸羽西線市町村連絡協議会と、それから庄内、最上の県議が知事に対して要望を行ったとのことでした。

また、新聞報道によりますと、9月27日の県議会予算特別委員会で佐藤藤彌県議の質問に対し、知事から「この地域の交通整備はまだまだで、特に庄内と内陸との交流は大事。庄内延伸を含め、総合的な交通体系について検討する段階、時期にあると思っている。」と答弁された記事が掲載されていました。酒田市民をはじめ、地域全体が知事の前向きな発言に対し、大きな喜びと期待を感じるところです。

今後、具体的にどのような検討をされるのか、山形新幹線庄内延伸の実現を切に願う立場からお伺いいたします。

<知事>

ちょうど1年前になりますけれども、皆様からおいでいただきまして、58,710筆の署名を頂戴いたしました。重く受け止めさせていただいたところでございます。

まず全国的なところからいきますと、太平洋側はフル規格新幹線あるいは高速道路というものが、フル規格新幹線なんかは鹿児島から北海道まで繋がっておりまして物流がすごいんでありますけれども、日本海側はまだまだということがございます。日本を人間のひ

とつの体に例えると、体の片方だけ発達して、体の片方は全然発達していないということになるかと思えます。私は知事会などの全国的な会議で、政府に向けても、リダンダンシー、補完的機能がなければいけないので、どちらかで災害が起きても、どちらかが助けなければいけないので、全国しっかりとインフラ整備をしていかなければいけないということを申し上げております。国土強靱化という言葉を使っていらっしゃる方がいるんですけども、そのことは災害のときにも大事でありますし、普段の平時のときでも、物流、観光、地方創生の面からみてもやはり均衡ある発展が大事だと思っています。

その縮図ということが、県内においても言えると思っております。ただ全国的な状況を見ると、山形県はこれ以上遅れるわけにはいかないという思いがありまして、奥羽・羽越新幹線は、政府でも昭和48年に計画しておりますので、きっちりと進めてもらいたいということをきっちり申し上げております。そのための同盟というものが立ち上がりましてオール山形で進めております。米沢でも推進組織をつくっていただきました。庄内地域でも11月上旬に推進組織が設立される予定と聞いております。また秋田県も、9月7日に山形と同様の推進組織が立ち上がりました。東北6県の知事会とか、新潟と山形と福島の上3県知事会でもしっかり連携してやっていこうということになっております。

なぜフル規格かという、今、山形はミニ新幹線でありまして、大雨が降ったり、大雪が降ったりするとすぐ止まっちゃうんですね。止まる回数が多いんですね。運休・遅延が数多く発生するので、安定性が大きな課題となっております。

JRでも福島から米沢までの山岳区間のところを抜本的な解決策ということで調査をしております。この抜本的な解決策がトンネルであれば、雪が降っても雨が降っても野生動物の影響も受けませんし、そこを2年かけて調査するというので、去年から始めているんです。そういうことがあります。そのことをまず御理解いただきたいと思っています。

県内の交通網では、日沿道と東北中央道が一定の目処がきつつあるんですが、山形県はまだまだで整備率が60%となっております。東北の平均が83%、全国の平均が80%で、山形は60%ということでもまだまだ遅れています。縦軸、横軸の高速道路もしっかり取り組んでいかなければいけないという実状であります。

58,710筆と多くの方々から山形新幹線の庄内延伸という御希望が出されておりました。昨日で終わった県議会の中でも、地元選出の議員から、このことについての質問もあったところでございます。私、お答えしましたのは、今すぐ、直接お答えすることはなかなか難しいのですが、県内の総合交通体系をしっかりと検討する段階にきているのではないかと思いますということをお答え申し上げたところでございます。

そのことに対してははっきりYES、NOとかということではなくて大変申し訳ないんですけども、県内の交通網ということはしっかりと取り組んでいかなければいけないと思っております。道路、また鉄道ということもあり、総合的にしっかりと将来を見据えて検討しなければいけないと思っておりますので、将来の課題としてしっかりと受け止めさせていただきますと思っています。

2 外航クルーズ対応について

<意見者>

酒田港への外航クルーズ船についての質問です。

来年の8月、外航クルーズ船が来るということを新聞等で知りました。私が思うには、

大きな客船が来た際に酒田市だけでなく庄内一円、いや、山形県全体でおもてなしが必要になると思いますが、山形県ではどのようにお考えでしょうか。

<知事>

外航クルーズ船が来ることは本県にとりまして初めてでありますし、本県唯一の貿易港であります酒田港にとっても初めてだということで、大変大きな期待をかけているところでもあります。

そのクルーズ船の誘致、また、受入れ態勢の構築ということでもありますけども、今年度から、“プロスパーポートさかた”という、私が代表なのですけれども、そのポートセールス協議会に新たに外航クルーズ船誘致部会というものを設けました。国土交通省と酒田市をはじめとする市町村、それから庄内観光コンベンション協会や商工・観光団体等を中心に、官民一体となって取り組んでいるところでございます。

来年8月2日の酒田港への初寄港の時には、例えば、Wi-Fi環境や多言語表記の整備、それから埠頭での観光案内所開設、県内全域の県産品販売ブースの設置、それから市内へのシャトルバスや県内を周遊する観光バスやタクシーの準備などをしっかりと行わなくてはなりません。また、酒田のシンボルの大獅子、羽黒山の山伏によるほら貝、やまがた愛の武将隊というのもありますので、そういった外国人うけするものを活用して、本県ならではの歓迎行事等も行うなどして、乗客や乗組員の方々の心に残るおもてなしを行うことが大事だと思っています。リピーターにつながるように取り組んでいきたいと思っています。

乗客の中には船から降りて来ない人もいらっしゃるんですね。だから降りてこさせるには何をしたらいいのかということも大事だと思っております。乗客は何を求めているのかニーズ調査が大事だと思っています。事前にそういうことをやっていきたいと思っています。観光を望んでいる人もいれば、工芸品を買いたいとか、あるいは電気製品を買いたいとか、いろんな方々がいらっしゃると思いますので、ニーズ調査みたいなものが大事かなと、それにしっかりと対応していくということが大事だと思っています。

試行錯誤ということもありますけれども、全国に先輩港がありますので、クルーズ船がたくさん来ているところ、そういったところのいろいろな知見も活用しながらしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

酒田港に外航クルーズ船が来ると本当に楽しみなことがいっぱいあると思いますけれども、丸山市長はどのように考えていますか。

<市長>

言われているのは、花火大会みたいなもので送り出したいと言われている。そこは酒田市よろしくと国からもしっかりと言われています。

さて、いかがしたものかなと。8月2日ですよ。たしか3日か4日後に酒田の花火ショーがあるんですよ。市民の寄付で基本的にやっている花火ショーなんですけど、この外航クルーズ船の歓送迎は、プロスパーポートさかたポートセールス協議会の誘致部会でやっている部分と、それから酒田市が、市民が中心となってやるべき部分と2つ必要なんだろうと思っています。

これから、酒田市の中でそういったおもてなしをする市民会議的な組織をまず立ち上げて、その中で市民の皆さん、それから学生さん、企業の皆さん、あとはさまざまな諸団体、

学校も含めて、そういった方々と一緒に知恵を出し合っ、そしてお金も出し合っ、花火大会だとか、あるいは歓迎のさまざまなイベントですとか、そういったものを企画していきたい。それで「酒田っておもしろいな。」と思ってもらえれば、またこの次も、ということになるだろうと思っしております。

先ほど知事から、半分くらいは外に出て半分くらいは船に残るというお話でございましたけれども、その残る方も大事だと思っ、特に船員の皆さん。船員の皆さんも、次、また来るかという判断には非常に大きな影響力を持つそうです。船員の皆さんも陸に上がって楽しむ、休暇を過ごすという部分もあるでしょうし、そういった面でも魅力あるまち、港だなあと思っもらえるようなおもてなしを心掛けていきたいと思っしております。

もう少しすると具体的に決まってくると思っしますので、また県と一緒にそのあたりを仕組んでいきたいと思っしております。

<知事>

酒田市と一緒になっ、しっかりと、もっともっとクルーズ船に来てもらえるように誘致にも頑張っしていきたいと思っ。

3 ジオパークの支援について

<意見者>

鳥海山・飛島ジオパークの支援についてお伺いします。

鳥海山・飛島ジオパークは先月9月9日、地域と行政、それから研究者、関係機関がひとつになっ認定に向けた活動が非常に高く評価されまっ、山形県で初めて登録が承認をされました。

それで、登録されればそれでいいというものではなくて、やっスタート台に立っと考えております。

これから鳥海山・飛島ジオパークを教育現場での活用、それから地域の皆さんがジオサイトに触れる機会を増やして地域の魅力を再認識してもらえることを望んでます。県内、県外、それから外国の方々からと多くの人から酒田、鳥海山・飛島ジオパークに来てもらっ、観光にも活かしていただけるのではないかと思っ。

鳥海山・飛島ジオパークに、酒田市、遊佐町だけではなくて県としてどのような施策や支援、それから利活用を考っおられるかお尋ねしたいと思っ。

<知事>

鳥海山・飛島ジオパークが、日本ジオパークに認定されて本当に良かったと思っ。おめでとうござい。

このたびのことは、鳥海山のまわりの4つの市、町が中心となっ、商工会議所や観光協会などと協力しながら、認定に向けた取組みを積極的に進めてこられた成果であると思っ。その御努力に対して、敬意と感謝を申し上げたいと思っ。

県でどうしていくのかというお話でありますけれども、これまで鳥海山では、登山道の整備やトイレの改築等を継続的に行っまいりました。それから、今年度から来年度にかけて、外国から訪れる登山客の便宜を図るために、英語・中国語・韓国語による案内標識

を設置することとしております。また、飛島に関しましても、海岸や登山道のクリーンアップ活動を進めるとともに、観光ガイドの養成などにも取り組んできたところであります。

今後とも、登山道や観光者利用施設の整備に引き続き取り組んでいきたいと思っております。また、このたびの認定を契機として、秋田県とも連携しながら豊かな湧水群や希少な動植物などを国内外に情報を発信して、観光交流の拡大や地域の活性化につながる取組みを積極的に支援していきたいと考えているところでございます。

また、東北観光推進機構が、東北連携、広域連携して東北にお客さんをお呼び込むということを進めております。その東北観光推進機構にも御協力をいただきながら、山形県と秋田県のちょうど中間にある鳥海山でありますので、広域連携の大変良い例、モデルだと思っておりますので、しっかりと連携して支援してもらいたいと思っております。そういった働きかけもしていきたいと思っております。

4 Food Expo「ジャパンパビリオン」への県の対応について

<意見者>

今年の1月8日に農事組合法人を立ち上げまして、それから活動して、8月10日に国のほうのFood Expo「ジャパンパビリオン」、香港のほうに、我々12名の構成員でありますけれども、なんとか半年間でそれに出場したいということでいろいろ工夫してきました。

山形県のほうではそのFood Expoのほうには、ブース申し込みがない関係で、JETROさんのほうにお願いをしました。

それでようやく8月10日から4日間、香港に7名で行って、旧八幡町の名産の青沢のつや姫を利用したお粥を、缶詰でなくレトルトの容器に入れて持って行きました。大変喜ばれました。

東北でも他県では支援を行っているところがありますが、山形県としても、我々のようなこれからの海外進出を目指している法人等に、あたたかい御支援を賜りたいということをお願いしたいと思います。

酒田市に急遽、支援していただきたいとお願いしたところ、計画にない支援はなかなか容易でないということでしたけれども、なんとか酒田市からも支援いただきました。むこうでは赤ん坊の離乳食が大変好評で喜ばれました。

神奈川県に私達の仲間がおりまして、その仲間が山芋を、山芋は庄内でも砂丘地にいっぱいあるんですけども、山芋を持って行ったところ、4日間で売るつもりだったのが初日の4時間で全部売れたと。そういう持って行って見ないと何が売れるかわからないような状況ですので、ぜひ県からFood「ジャパン」にブースを、我々ブース代が30万円、40万円の枠を買わなければいけない状況ですので、そういった面を御支援くださるようお願いいたします。

<知事>

Food Expo「ジャパン」香港での貴重な情報をいただき、ありがとうございます。

御意見をいただいたFood Expo「ジャパンパビリオン」のような見本市への出展につきましては、山形県でも他の県と同様に開催に要する経費の助成を実施しているところでございます。

事業者の方の輸出の事前検討から商談のフォロー、継続取引までの一連の取組みについ

て支援を行っております。本県ならではの切れ目のない支援となっておりますので、御利用いただければと思います。

具体的に言いますと、県産農産物等の輸出に取り組んでいる県内の農業者団体や組織が、輸出拡大のために実施する事前の流通状況調査やバイヤー招へい、また、輸出専用商品の試作や見本市への出展、海外でのプロモーション活動等の取組みへ一部助成を行っております。こういったことを通して海外への販路拡大の支援を行っているところでございます。

さらに、日本貿易振興機構、JETROですね、JETROとの連携に加え、県では、山形県国際経済振興機構というものがございまして、そこに海外取引専門スタッフを配置しております。県内の事業者と現地輸出パートナーとの取引の支援をしているところでございます。

御意見をいただいた香港につきましては、輸出の制約が比較的小さくて参入しやすい市場であります。その反面、他の産地も大変たくさん参入しているということで、競合が激しい市場でもあります。

こういった市場の特徴を踏まえまして、国際経済振興機構の専門スタッフによるきめ細やかな相談体制や商談後のフォローアップを行っておりますので、お気軽にお尋ねいただければと思います。

商工労働観光部の経済交流課と、農林水産部の6次産業推進課、あと今申し上げた山形県国際経済振興機構の連絡先の電話番号をお渡しさせていただきますので御活用いただければと思います。

<庄内総合支庁長>

見本市に山形県のブースがなかったということだったと思いますけれども、知事から話ありました県の国際経済振興機構で、実は、香港美食商談会とか、タイとか中国の方にも商談会でブース設けているところがあるんですけども、どちらかというところ国際経済振興機構のほうでは見本市ということじゃなくて、ビジネスに直接結びつける商談会を中心にブースを設けている感じがあります。

ただ、今のお話をお伺いしますと、Food Expoの見本市もまた素晴らしいようですので、そういうこともあるということで、国際経済振興機構にお伝えさせていただきます。

<知事>

輸出拡大に県としても力を入れていきたいと思っておりますので、一緒になって頑張りましょう。

<市長>

今、庄内空港から羽田に飛行機が飛んでいるうち、4便目が大きい飛行機で、荷物室が大きい飛行機です。ANAカーゴという全日空の別会社がありまして、農作物を荷物室に積んで、羽田にその日のうちに持って行って、その日のうちに羽田から今度は沖縄の那覇空港に持って行って、酒田から出したものが、翌日の午後には、東アジアのマーケットに並ぶというシステムがもう出来上がっているんです。

ANAカーゴと、ヤマト運輸と、県が連携協定を結ぶとその流通ルートが出来上がるんです。それを早くやってくださいとお願いをしているところです。連携協定が結ばれて、あとバイヤーがつけば、この地域の農産物をどんどん売り込める環境が整うことになりま

す。

沖縄県がこれを一生懸命やっています、今度の11月21日、22日に那覇でバイヤー同士の商談会がありまして、それに私共行ってまいります。そこでバイヤーがつけば、その連携協定ができれば、東南アジアにはどんどんものを出せる環境になります。売る気のある皆さん、海外にどんどん農産物を出そうとするやる気のある農家や農業法人の皆さんには恰好の環境が整います。県でないと連携協定結ばませんので、県のほうに力強く私共お願いして、山形県からいち早く連携協定を結んでいただいて、そういうルートが出来上がると、どんどんいいものをアジア市場に送り出せます。

<知事>

先ほど、山芋も4時間で完売ということですので、可能性があるんですね。

<意見者>

輸出のルートがなかなか。山形のほうで頼んで香港のほうに持って行ったのですが、千葉県のパ安市まで持って行けばすぐできるということで、そういうルートもいろいろ探したのですが、酒田港からはコンテナがいっぱいでないとなかなか行けないということもあって、そのへんが私たちの悩んでいるところですので、ひとつ進めていただくようお願いいたします。

<市長>

全日空が庄内空港を独占していますので、その資産を使わない手はないと思っています。

全日空とヤマト運輸と県が、県産品拡大連携協定を結んでいただければ、その日からどんどん売り込める環境が整いますので、県の方に私どももしっかりとお願いをしてまいります。

5 若者の地域定住、男女共同参画社会の県の施策と現状について

<意見者>

少子高齢化社会と人口減少の波は、酒田はもちろんですが山形県全体、日本全体に押し寄せている問題ですので、真剣に皆さん考えておられることと思います。若者が住み着いてくれないと子どもも増えないわけですので、若者が地域定住するためにはどのような具体的な方策をしているかということ、酒田にとっても山形県にとってもですが、具体的な施策を教えてください。

それから、女性の立場からですけど、男女共同参画社会というのが、世界規模で見ると先進国の中で日本は大変遅れている国だと言われてはいますが、県知事、吉村知事になられてから山形県ではどのくらい進展しているのかという実態についても教えてください。

<知事>

1点目が、若者の地域定住への施策ということですが、県では、若者の県内回帰・定着を促進するために、さまざまな施策を展開しております。

若者の地元就職の促進に向けた主な取り組みですが、現在、若い人の仕事や生活について

のワンストップ相談窓口であります「トータル・ジョブサポート」というのを、県内の4地域に設置して就職相談等の支援を行っております。庄内地域では酒田産業会館内に設置しております。

また、県外の大学等へ進学した若者向けには、首都圏での就職説明会を開催したり、昨年12月に「山形県就職情報サイト」というのを、インターネットの中に開設いたしました。そのサイトの中で、県内企業の魅力ということや、求人情報を発信しております。

それから、東京の「Uターン情報センター」というところに山形県内の就職の相談対応窓口を置いております。そういったことでUIターン就職の促進を図っております。

Uで行った人は戻って来る、あるいは県外から人を引っばるという、UとIのUIターンでございます。

併せまして、本県出身者が多い首都圏の大学とのUIターン就職促進協定を締結しております。今は、東海大学、神奈川大学、専修大学、大東文化大学、日本大学の5つの大学と協定を締結しております。就職活動を支援したり、あと経済的な支援として、県内企業の面接を受けに来る時に交通費がかかるわけですが、その交通費の助成制度も設けております。それから、卒業後に県内で居住・就業する人に対して、奨学金返還支援制度というものも創設しております。総合的に若者の定着・回帰の促進を図っているところでございます。

多くの若い人たちが今後とも地元山形で安心して仕事に就いて頑張っていけるように、「やまがた創生」の実現に向けた検討を進めてまいります。より一層、県と関係機関や団体、市町村としっかりと連携しながら、若者の県内定着・回帰に向けた取組みを推進していきたいと思っております。

2点目の、男女共同参画が今どうなっているかということですが、山形県は、共働き率が68.2%で、これは全国トップでございます。それから、本県では、育児をしながら働いている女性の割合が72.5%、これは全国第2位でございます。あらゆる世代で女性の就業率が高いというのが本県の特徴です。

また、働く女性の正社員比率が高く、全国に比べると男女間の賃金格差は小さくなっているというのも特徴だと思います。

それから、各分野における「指導的な地位」に女性が占める割合を見ますと、政治家、市議会議員とか、そういった政治家、医師、あと弁護士、公認会計士等の分野で、女性の参画が全国より低くなっております。

それから、地域における男女共同参画状況を見ますと、本県の町内会長さんを務めている方々の中の女性の割合というのは、平成27年度で1.1%。全国は4.9%いらっしゃるんですが、本県は大変低いです。また、県が平成26年度に実施した男女共同参画に関する県民意識調査では、「PTA・町内会の代表になる」という要請がきた女性は「断る」という回答が53.4%、男性に比べて2割以上高いんです。理由として「責任を果たせる自信がない」、「自分や家族の負担が増える」が多いんです。女性の意識改革や男性の家事・育児などの参画を進めていくことが重要だと考えております。

こういった状況を踏まえ、県では、女性も男性も、個性と能力を十分に発揮して活躍できる社会づくりをしていきたいと思っております。企業に対しては、山形いきいき子育て応援企業登録・認定制度というものを行いまして、企業等での働きやすい職場環境づくりを推進しております。

それから、女性の活躍推進に向けては、女性管理職養成プログラムというものを実施したり、ロールモデル、自分の周りに活躍している、管理職になっている女性が少ないという方がいらっしゃると思いますが、そのロールモデル集の冊子を作りまして、それを読んでいただいて、意識改革、参考にさせていただくということも取り組んでおります。

また、マザーズジョブサポート山形というのを東北で初めて設置しまして、子育て中の女性の就労をサポートしております。

それから、男性の家事・育児等への参画促進ということになりますと、やまがた企業イクボス同盟というものを設立しました。男性の家事・育児への参画促進などに取り組んでいくこととしております。

昨年度に県で策定した新たな男女共同参画計画では、「地域における身近な男女共同参画の促進」ということを重点分野として取り組んでおります。県内市町村の男女共同参画計画の策定率は半分くらいです。酒田市では計画を策定されております。男女共同参画センター「ウィズ」を中核として積極的に取り組んでおられ、大変心強く感じております。県内で一番早かったと思います。

矢口副市長ということで、女性の副市長を起用されました。これは県内の先進的な取り組みだと思っております。どちらかが女性であれば、副、サブになる人が男性でと、それでいいんです。社会の半分、人口の半分は男性、半分は女性でありますので、両方の視点が盛り込まれれば住みやすい社会になると考えているところでございます。

県庁、足元を見ますと、私が知事に就任するまでは県庁に部長級の女性の職員はおりませんでした。それで「隗より始めよ」ということで、就任してすぐに、知事直轄の子ども政策室というものを設置して子ども政策監に女性を登用いたしました。部長級であります。1年後には子育て推進部という部に昇格させまして、正式な部長にしました。現在は、8人部長いるうちの2人が女性でございます。足元でもできることをやっているところでございます。

このようにモデル的な取り組みをしていらっしゃるって、丸山市長もすごく大したものだと思っております。

<市長>

山形県は知事が女性ですから、わが酒田市は、じゃあ副市長を女性にしようということで、矢口副市長にお願いをいたしました。そういう意味では男女共同参画のモデル都市として頑張っていきたいと思っておりますが、実は私の政策のプレーンの中で、産業・交流都市創造会議という組織がありまして、いろんな方々がいらっしゃるんですけど、先日東京で意見交換してきた時に、女性が働きやすい環境を作るということが、これすなわち産業振興策の第一だと言われました。

それまで私はそうとは思っていませんでしたが、別物と思っていたんですが、産業振興を進めるということであれば、女性が働きやすい環境、女性が子育てしやすい環境を作るのが一番の産業振興策ですとはっきりと言われてきました。この方は日本のトップの銀行の頭取を経験された方です。外国の経験もある方です。それを言われました。

今、知事からいろいろな県の施策を聞かせていただきましたけれども、酒田市において、そういう視点で女性がもっともっと社会で進出しやすい、そして子育てしやすい、そして男性と一緒に活躍できる地域社会を作る、そういう環境の施策を打つということが、これ

すなわち産業振興につながるという認識の下でこれからも頑張っていきたいと思っております。

現在も副市長と一緒に男女共同参画のしくみとしてどういう施策を市町村として打てるのかということ、今いろいろ工夫をして練っている最中ですが、県の施策プラス市の施策の中でそういう環境を酒田市で整えていきたいと思っております。

抽象的な話で申し訳ないんですが、来年、29年度の事業予算の中に何か具体的な施策をきっちりと打ち出したいという思いでいるところです。

<知事>

皆さんに知っていただきたいのは、男性も女性も両方、みんなが生き活きと輝いて生きることが大事だと私は思っております。女性が、女性が、じゃなくて女性もという言葉は私はずっと使っています。

ウーマノミクスという言葉があるんですけども、ウーマンとエコノミクス、女性と経済を合わせた造語なんですけども、1990年代からあったということで、アベノミクスよりも先にあったんです。女性の視点を活かして経済を活性化させるということでもあります。

例えばノンアルコールビール、あれは女性が考えたものだそうでございます。旦那さんと一緒に、自分が妊娠しても旦那さんと一緒にビールで乾杯したいという時にノンアルコールという発想が生まれて、それが製品化されたわけです。

それから、ある県内のストーブメーカーに行った時に、その社長さんがおっしゃっていたんですが、「俺たち男は黒いストーブしか頭に浮かばなかった。」と。でも若い女性社員が「ピンクのストーブがあったらいいな。」「黄色いストーブがあったらいいな。」と言って、ピンクや黄色や水色のストーブを作ったところ注文が来て、幼稚園とか保育園とかそういうところに売れているんだそうです。「俺たち男とは発想が違うんだよな。」とおっしゃっていたんです。

だから両方の視点を生かすということで経済はもっともっと可能性が出てくると思うんです。女性も意識をしっかり持ってほしいと思いますし、どんどん人口減少していく時に、女性も働くのは当たり前と、昔だと女性を引っぱり出すようなところがあったんですけど、そうではなくみんなが働くのが、女性も、障がい者も、高齢者も、みんなが、県民総活躍で働いていかないと、どんどん活力がなくなっていく時代になると思うんです。

だからみんなが力を発揮できる社会というものをしっかりと作っていききたいと思っております。

【その他の質疑】

6 少人数学級「さんさんプラン」の更なる推進について

<意見者>

知事に、お礼とお願いをします。私は2年前まで教育の場にいまして、「教育山形さんさんプラン」がいかに先生たちにプラスになったかというお礼です。

今でこそ、全国でも少人数学級を推進しているわけですけども、残念ながら国のほうは、文科省は勧めているのですが、財務省は予算がないということで40人学級がベースになっています。ただ、ようやく1年生だけ35人となって、それを少人数と言っているんですけど、全然少人数ではない。山形県は十何年前から全国に先駆けて少人数学級、33人学級を

ということで「さんさんプラン」が進んでいます。

現場に来ていただくとわかるんですが、40人と33人では、教える先生たちの負担、教え方が全然違ってくるので、有り難いと思っています。

それで、ここからお願いなんですけど、御存知のように、道徳が教科になり、小学校5、6年の英語も教科になる、アクティブ・ラーニングが入り、プログラミング教育が入りということで、次から次にと新しい教育が入ってきています。

そうしますと、現場としてはできるだけ多くの人材、人間がほしいという思いがあります。

財務省はなかなか予算つけてくれないので、山形県のほうで、教育は未来への投資と言われていきますので、子どもたちのために今の「さんさんプラン」を維持するだけではなくてさらに発展させていただいて、山形の子どものための教育のために大事な予算を使っただけだと有り難いと思います。

<知事>

現場からのお声だと思います。今お話にありましたように、全国に先駆けて少人数学級、小学校1年から中学校3年まで実施したのが山形県でございます。全国的にはそうならないという状況がございます。

それと、最近県民の皆さんから「学力はどうなっているんだ。」という声を多く頂戴しています。先生方、生徒の普段の生活にとってはいい面がたくさんあるんですけども、学力というところもしっかりやってほしいという声も県民からいただいております。学力はもちろんスポーツ、そういった面も合わせて、心・技・体、全部大事な人間形成でございますので、しっかりこれからも取り組んでいきたいと思っております。

教育は未来への投資だと、その通りだと思います。限られた財源の中ではございますけれども、人材育成は大事なところでありますので、政府にも声を上げながら取り組んでいきたいと思っております。

7 高速交通網の格差是正及び山菜王国の山形県について

<意見者>

高速化が日本海側は大変遅れています。この時間差、今、東京から函館までは4時間ちょっと。庄内から東京駅までも4時間ちょっと。距離は半分しかないんです。この格差をどのように考えられるのかというのが1点。

もう1点は、知事が「山形県は山菜王国、これからもこれを一所懸命取り組んでいきたい。」というお話をされたことがあります。そのところをもう少し具体的に詳しくお話いただければ有り難いです。

<知事>

2点頂戴しました。交通というのは大事なところだと思っています。地方創生というのは、ともすればソフト的な面で「アイデアを出せ」とかそういう感じで、ソフトやアイデアに対して交付金ということが結構あったんですけども、私は、それはそれですごく大事なことなんですけれども、その基盤となる交通インフラ、社会インフラ、そこがもう最初からもう違っているわけです。

太平洋側と日本海側でいえばそうなんですけども、違う条件の人間に競争しろというわけでありまして、それは最初からおかしいのではないかという意識を持っておりまして、まずその基盤をちゃんと同じようにしなきゃいけないということを政府には申し上げているところでありまして。

そのことをしっかりと取り組みながら、もちろんできる限りのアイデアだったり、人材、力でしっかりとやれることをやっていかなきゃいけない、またマイナスをプラスに変えるという思考も大事ですけれども、そういったことに関して田舎をマイナスと受け止めるのではなくプラス思考で、田舎は田舎というのを作っていくというような、いろいろな考え方、発想の転換が必要だと思っているところでありまして。

格差是正ということはいち早くやっていかなきゃいけないと思っています。日沿道をなるべく早く繋ぎたいと思っておりますし、秋田県、新潟県、両県と連携しながらしっかりと繋げていきたいと思っております。

それから山菜王国ということではありますが、山形県はたらの芽が日本一の生産でありますし、なめこもそうでありますし、根曲がり竹は4位です、ひとつひとつは詳しく今すぐは言えませんが、たくさん山菜を生産している県なんです。

というのは、山がいっぱいあるので、それは自然なことだと思っています。農産物、まだまだ生産できると思っておりますし、春の山菜、秋の山菜、あとはキノコという感じなのかと思うんですけども、山を活かすということ、そのことはまだまだ取り組んでいけると思っております。

「森林ノミクス」という言葉を使っておりますけれども、その中に山菜とかキノコのこともしっかり書いているといいますか、力を入れて取り組んでいきたいと思っております。

あと、山岳観光であったり、林業という側面だけではないと思っています。森というところは何をするといいか、心を癒してくれるところだと言う人もいます。ちょっと精神的に病を抱えた人も森の中で癒されて治るというようなことも聞いたことがありますし、森にはいろいろな力があると思っております。

山菜とは離れて恐縮なんですけども、例えば、真室川町の「雪うるい」という名称の食べ物があります。雪という言葉で冠することで都会の人はおいしく感じるんですね。東京にいた時に「雪国まいたけ」というのを見たら、新潟の舞茸だったんです。「うわあ、取られた。」と思いましたがね。雪国とか雪とか冠すると、大変おいしそうに思えるんですよ。白くて、みずみずしくて、すっきりしていて。なんかイメージがとてもいいんです。だから食べ物にそういうふうにくっつけるのは、ネーミング、すごく大事だと思っております。

酒米、県産の酒米、新しいのが出まして「雪女神」と名付けました。それ、大変酒造組合から喜ばれたところです。そのまま酒の名前にもできるということもあります。今まで、出羽なんとか、なんとか錦、相撲取りの名前みたいというのが多くて、そういうのをいっぱい使うんですけど、それじゃなくて、ちょうどその時「縄文の女神」が国宝に指定された年だったものですから、「じゃ、女神さまも本県にいるわけだし、国宝もあるから、『雪女神』にしたら。」と言ったら大変喜ばれたということもあります。

雪に関連してしゃべってしまいましたけれども、山菜のこともっとしゃべらなきゃいけないね。フキノトウも山菜じゃなかったかな。フキノトウで「春音」という名前のかわいらしいまるまるとしたフキノトウは山形県で開発したんです。山菜の開発にも力を入れております。たらの芽にもいろんな種類があって、なるべく重量感のあるものを開発した

りとか、産地研究室で力を入れて取り組んでいるところでありますので、山菜、山形県の強みだと思っておりますので、しっかりと販売していけるように取り組んでいきたいと思っております。

8 空き家について

<意見者>

私は、酒田西高校に通っています。

山形県では、酒田市をはじめとして空き家が増えていて、それが今問題になっていると思うんですけど、それをうまく活用することができれば逆に武器にすることができると思うんですが、それについてどうお考えでしょうか。

<知事>

空き家についてどう考えているかというお話であります。全国的に空き家が増えております。本県も例外ではございません。全国的に比較して多いほうではないというものの、確実に増えているということを知っております。

それをどう活用していくかということが大事だと思います。活用できない空き家と活用できる空き家があるんです。老朽化したのは無理だということもありますし、ちょっと手直しするとまだまだ使えるぞということもあるということでございます。

また、売買できるところはどんどん売買して活用してもらおうということもありますし、たしか不動産の県の組織と協力関係を結んで、そのことに取り組んでいると聞いております。売買できるところはしていくというのも一つの手だと思います。

もう一つは、活用するというところを市町村の例を申し上げますけれども、空き家を提供して、ただであげるということではないと思いますけれども、手直しするところをちょっと補助するのかな、そういう制度も入れながら、県外にネットで発信したところ、仙台から若い御夫婦が来て、たしか朝日町だったと思います。こういった空き家がありますよと紹介して他県から来ている例があったということを知っております。

どこにいても仕事ができるインターネットのデザイナーだったり、都会にいなくてもできる仕事ってけっこうあるらしくて、そういう方が山形県の市町村に移住してきて、もう快適な毎日の生活を、いい空気を吸って、おいしい食べ物を食べて、そして空き家を活用して住んで仕事もしているという例を知っております。それは良い例だと思います。

あと、悪い例は、ボロボロになってもさっぱり直さないで、ほったらかしにしている所有者がけっこういるやに聞いております。それが道路にひっくり返ってきたりすると危険なわけです。所有者が都会にいて、直すのももったいないということで、相続もしたくないとか、いろんな方々が出てきていて、市町村は大変な思い、苦労しているということも知っております。

どうやってそういうところを解体していくのかというマイナス的な課題もございます。

できるだけ活用して、定住人口を増やすという方向に活用していければいいなと思っております。

いいアイデアがあったらどんどん出してもらおうと有り難いですね。

酒田市の空き家は、どのくらいあるんでしょうか。

<市長>

1,000ですね。1,000くらいあるのかな。

今知事からもありましたけれど、要するに壊さないと危険な空き家と、それから使える空き家と2種類あるんです。

使える空き家は貸し手と借り手が必要になるわけですけど、今、酒田では、例えばお試し住宅、移住・定住で酒田を考えている方々がその空き家、ボランティアの皆さんが少し手を加えて、お試し住宅で酒田の生活を体験してもらって、酒田での生活を味わってもらおう。良さを感じられれば、そして仕事が見つければ定住してくれる、そういった形で空き家を活用している人たちが来ています。

例えばシェアハウスとか、いろいろな形で空き家を少し修理して使いやすくすればという御提案もあるのだろうと思いますけども、いろいろな法律の規制とかありますので、そういったことをクリアできれば、そういった活用の道を探してみたいと思うし、我々行政とすれば、例えばそういう改造費に何らかの助成措置を講じられれば少し改装しやすくなるので、少し快適な居住空間を提供できれば、空き家を、そこを借りてみようという人が出てくるということもあると思います。

ただ、酒田市もなかなかお金がなくて貧乏なものですから、できればそういった施策は県のほうからやってもらえると有り難いという正直な気持ちありますけれども、空き家を有効に活用して、少しでも移住・定住の人たちを酒田に呼び込むというのが大変重要な施策だと思いますので、真剣に考えていきたいと思っています。

<知事>

高校生の方からお話したのは良かったなと思います。18歳から選挙権になりました。

自分たちの将来を真剣に考えるというのはとても大事だと思っていて、県の審議会などには必ず若者委員を入れるようにと言っています。いろんな年齢の人に委員に入ってもらって反映してもらいたいと思います。

若者にもどんどん出てもらいたいと思っております。今日御発言していただいて大変有り難いです。